SONY

3-258-321-**03**(1)

デジタルサラウンドヘッドホンシステム

取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

MDR-DS3000

目次

準備

安全のために 2
主な特長 7
本体／付属品を確かめる 8
各部のなまえと働き 9
　プロセッサー前面 9
　プロセッサー後面 10
　ヘッドホン 11
付属の専用充電式ニッケル水素電池を充電する 12
　付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる 12
　充電する 13
　電池の残りを確認する 14
　乾電池（別売り）を使う 15

接続

ヘッドホンシステムをつなぐ 16
　プロセッサーとデジタル機器をつなぐ 16
　プロセッサーとアナログ機器をつなぐ 17

操作

つないだ機器の音声を聞く 19
ヘッドホンを増設して楽しむ 24
イヤーパッドを交換する 25

その他

故障かな？と思ったら 26
使用上のご注意 29
保証書とアフターサービス 30
主な仕様 30

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

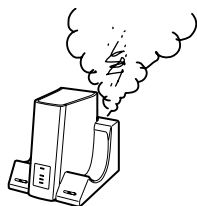
定期的に点検する

1年に1度は、ACパワーアダプターのプラグ部とコンセントとの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACパワーアダプターなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

❶ **電源を切る**

❷ **ACパワーアダプターをコンセントから抜く**

❸ **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

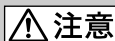
警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・漏液・発熱・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・発熱・発火・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、漏液・破裂・発熱・発火・感電などによりやけどやけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

接触禁止

下記の注意を守らないと、**火災・発熱・発火・感電**により**やけど**や**大けが**の原因となります。

運転中は使用しない

自動車の運転をしながらヘッドホンを使用したり、細かい操作をしたりすることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、ACパワーアダプターをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

この製品を海外で使用しない

ACパワーアダプターは、日本国内専用です。

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、充電用接点や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

指定以外のACパワーアダプターを使わない

破裂・液漏れや、過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACパワーアダプターをさわらない

感電の原因となることがあります。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。
とくに、ミニディスク、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器を聞くときにはご注意ください。

通電中のACパワーアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

かゆみなど違和感があったら使わない

使用中、肌に合わないと感じたときは使用を中止して医師またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

本機では以下の電池をお使いいただけます。電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

乾電池

単4形

⚠危険　充電式電池、乾電池が液漏れしたとき

充電式電池、乾電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない

液が本体内部に残ることがあるため、お客様ご相談センターまたはソニーサービス窓口にご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠危険　充電式電池について

- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 指定された充電器以外で充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 指定された種類以外の充電式電池は使用しない。
- 使いきった電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。

（次のページへつづく）

⚠警告 乾電池について

- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使いきった電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

⚠注意 乾電池について

- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。

日本国内での充電式電池の廃棄について

ニッケル水素電池は、リサイクルできます。不要になったニッケル水素電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については社団法人電池工業会ホームページ
http://www.baj.or.jp/ を参照してください。

主な特長

本システムは赤外線伝送方式（アナログ）を使用したデジタルサラウンドヘッドホンシステムです。
DVDプレーヤーなどと本システムのデジタルサラウンドプロセッサーを付属の光デジタル接続ケーブルで接続するだけで、マルチチャンネルのサラウンド音場を、ヘッドホンで快適にお楽しみいただけます。

- ドルビーデジタル*、ドルビー プロロジックII*、DTS*対応（「ドルビーデジタルサラウンドEX」、「DTS-ES」表記のソフトも再生可能）
- ドルビーデジタル／ドルビープロロジックII、DTSバーチャル認証取得
- さらに進化した「バーチャルホンテクノロジー」により、よりリアルな臨場感あふれるサラウンドサウンドをヘッドホンで実現
- 外来ノイズなどの影響を受けにくい赤外線を利用した、コードレスヘッドホンを採用
- ヘッドホンをプロセッサーにのせるだけの簡単充電方式
- 最大7mまでの広い赤外線到達範囲
- ヘッドバンド調節不要のフリーアジャスト機構を採用
- ヘッドホンをかけるだけで自動的に電源が入り、はずすと自動的に電源が切れる、オートパワーオン／オフ機能
- ヘッドホンの左右の音量を連動して調整できるVOL（ボリューム）つまみ
- ヘッドホンの電源は、付属の専用充電式ニッケル水素電池、または別売りの単4形乾電池のどちらでも使用可能
- 受信範囲外での耳障りなノイズをカットするミューティング機能
- 音声入力のない状態が10分続くと自動的にプロセッサーの赤外線出力がOFFになり消費電力をセーブ

* **本システムのプロセッサーは、ドルビーデジタルデコーダー、ドルビープロロジックIIデコーダー、およびDTSデコーダーを搭載しています。**
本システムのプロセッサーはドルビーラボラトリーズおよびデジタルシアターシステムズ社からの実施権に基づき製造されています。

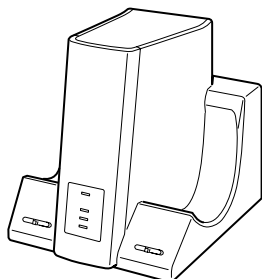
ドルビー、DOLBY、PRO LOGIC、およびダブルD記号◘◘はドルビーラボラトリーズの商標です。

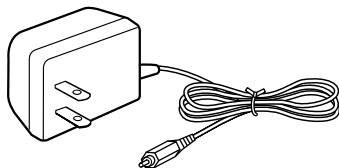
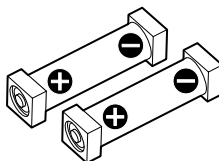
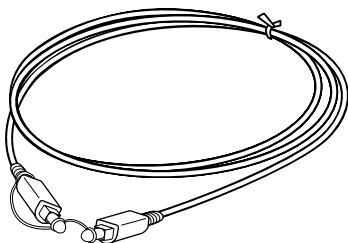
DTSおよびDTS VIRTUALはDigital Theater Systems, Inc.の商標です。

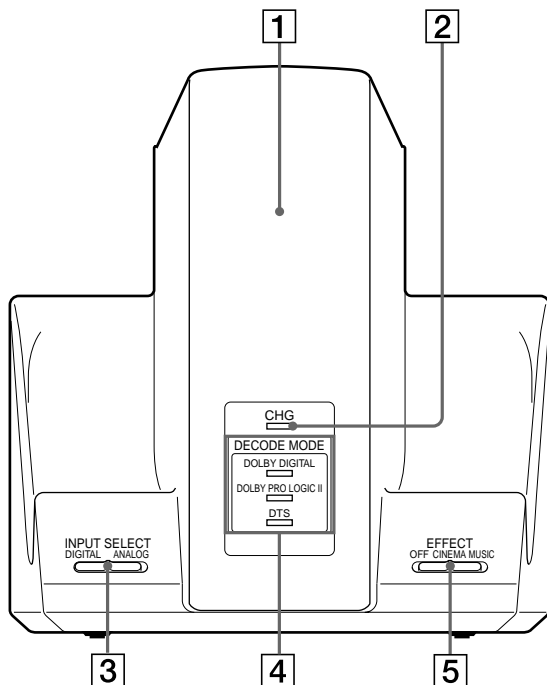
ご注意
CEマークは主にEEA（European Economic Area）各国など、法律に定められた国においてのみ有効です。

本体／付属品を確かめる

本機をお使いになる前にすべてそろっているか確かめてください。

① **プロセッサー** DP-IF3000（1台）

② **ヘッドホン** MDR-IF3000（1台）

③ AC**パワーアダプター**（1個）

④ **専用充電式ニッケル水素電池** BP-HP550（2本）

⑤ **光デジタル接続ケーブル**（角型↔角型、1本）

各部のなまえと働き

プロセッサー前面

1 **赤外線発光部**
赤外線発光部が見通せる位置に設置してください。

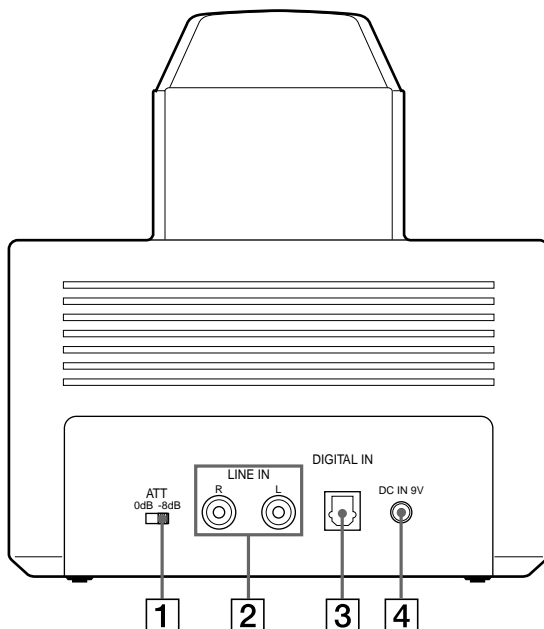
2 CHG**(充電)ランプ**
充電中は赤く点灯します。

3 INPUT SELECT(インプット セレクト)**(入力切り換え)スイッチ**
入力(DIGITAL/ANALOG)の切り換えに使います。

4 DECODE MODE**(デコードモード)ランプ**
(詳しくは21ページ)

5 EFFECT(エフェクト)**(効果)スイッチ**
(詳しくは20ページ)
音場モード(OFF/CINEMA/MUSIC)の切り換えに使います。

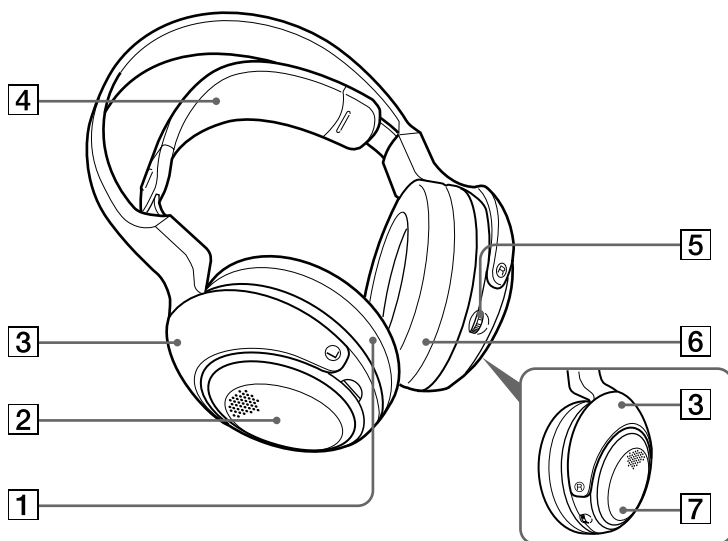
(次のページへつづく)

プロセッサー後面

1 ATT（アッテネーター）**スイッチ**
アナログ入力で音声が小さい場合は「0dB」に切り換えます。通常は「–8dB」にして使います。

2 LINE IN（ライン イン）**（ライン入力）端子**
（詳しくは17ページ）
ビデオデッキやテレビなど、別売りのAV機器の音声出力端子につなぎます。

3 DIGITAL IN（デジタル イン）**（デジタルソース入力）端子**
（詳しくは16ページ）
DVDプレーヤーなど、別売りのデジタル機器につなぎます。

4 DC IN（ディーシーイン）9V**端子**
付属のACパワーアダプターをつなぎます。（必ず付属のACパワーアダプターをお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因となり危険です。）

ヘッドホン

1 **イヤーパッド(左)**

2 **電池ケース**
左ハウジング部にあるボタンを押すと電池のふたが開きます。
付属の充電式電池および別売りの単4形乾電池専用です。

3 **赤外線受光部**
左右2ヶ所にあります。

4 **フリーアジャストバンド**
頭にかけると自動的に電源が入ります。

5 **VOL(ボリューム)(音量)つまみ**
音量を調節します。

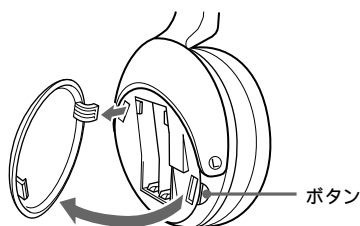
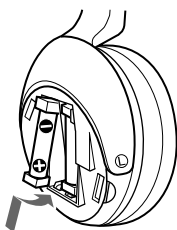
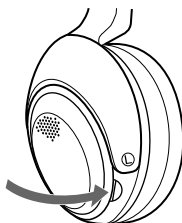
6 **イヤーパッド(右)**

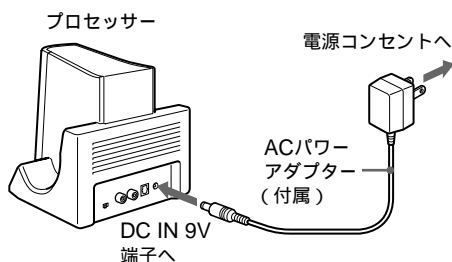
7 **電源ランプ**
フリーアジャストバンドを引き上げると、電池の残量が充分ある場合赤く点灯します。

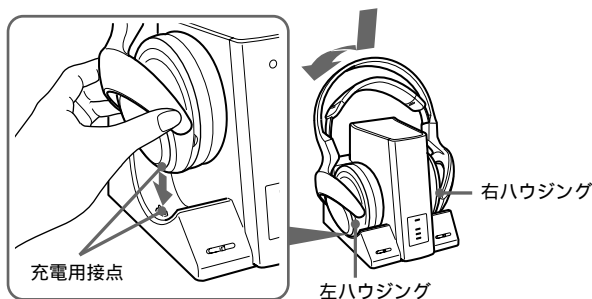
付属の専用充電式ニッケル水素電池を充電する

お買い上げ時の充電式電池は、まず充電してからお使いください。
ヘッドホンをプロセッサーにのせて充電します。

付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる

1 左ハウジング部にあるボタンを押し、電池のふたを開ける。
電池のふたは、はずれます。

2 付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる。
付属の充電式電池以外は充電しないでください。

3 電池のふたを閉じる。

充電する

1　プロセッサーに電源をつなぐ。

2　ヘッドホンとプロセッサーの充電用接点が接触し、CHG（充電）ランプが点灯するようにヘッドホンをプロセッサーの上にのせる。

約16時間後に充電が完了し、CHG（充電）ランプが消灯します。
ヘッドホンをプロセッサーの上にのせるときは、左右ハウジング部が平行になるように両手で持ち、プロセッサーに垂直にのせてから奥に倒してください。

CHG（充電）ランプが点灯しない場合は

ヘッドホンをプロセッサーにのせるときは、左右を確認してください。また、プロセッサーとヘッドホンの充電用接点が正しく接触していない場合がありますので、ヘッドホンをプロセッサーの上にのせ直してみてください。

ヘッドホンをお使いになったあと再充電するには

ヘッドホンをプロセッサーに再度のせてください。CHG（充電）ランプが点灯した後、DECODE MODE（デコードモード）ランプが消灯し、充電が始まります。
本機は内蔵タイマーにより充電（約16時間）を完了しますので、ヘッドホンをプロセッサーにのせたままでも、充電のしすぎによって故障することはありません。

（次のページへつづく）

ご注意

- 充電中はプロセッサーの電源が自動的にOFFになります。
- 本機は、安全のため付属の充電式電池BP-HP550のみ充電できるようになっています。他の充電式電池を使っても充電できませんのでご注意ください。
- 乾電池を入れても充電されません。
- 付属の充電式電池BP-HP550を他の機器に使用しないでください。この電池は本機専用です。
- 充電は0°C～40°Cの環境で行なってください。

充電時間の目安と使用可能時間

充電時間	使用可能時間*1
約1時間	約1時間15分*3
約16時間*2	約20時間*3

*1　1kHz,1mW+1mW出力時
*2　充電されていない状態からフル充電するのにかかる時間
*3　周囲の温度や使用状態により、上記の使用可能時間と異なる場合があります。

電池の残りを確認する

フリーアジャストバンドを引き、右ハウジング内の電源ランプが赤く点灯すれば使用できます。
電源ランプが暗い、点滅する、または音がひずむ、とぎれとぎれになる、「ボッボッ」というノイズ音が聞こえたり雑音が多くなったときは、充電するか、新しい乾電池でお使いください。

ご注意

付属の充電式ニッケル水素電池を充分に充電しても、使える時間が通常の半分くらいになったときは、新しい充電式電池と取り換えてください。この充電式電池BP-HP550は市販されていませんので、お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口へお問い合わせの上、お取り寄せください。

乾電池（別売り）を使う

本機は別売りの単4形乾電池でもお使いになれます。「付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる」（12ページ）と同じ方法で乾電池を本機に入れます。
乾電池を入れた状態では充電機能はお使いになれません。

乾電池の持続時間

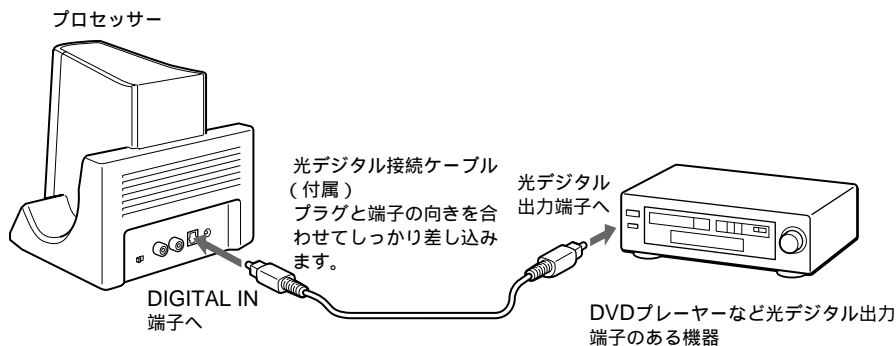
乾電池の種類	持続時間*1
ソニーアルカリ乾電池 LR03/AM-4(N)	約35時間*2
ソニーマンガン乾電池 R03/UM-4(NU)	約15時間*2

*1　1kHz,1mW+1mW出力時
*2　周囲の温度や使用状態により、上記の持続時間と異なる場合があります。

電池の残りを確認するには、「電池の残りを確認する」（14ページ）をご覧ください。

ヘッドホンシステムをつなぐ

プロセッサーとデジタル機器をつなぐ

付属の光デジタル接続ケーブルを使って、DVDプレーヤーなど*1の光デジタル出力端子*2と、プロセッサーのDIGITAL IN端子をつないでください。

ご注意

- 光デジタル接続ケーブルは非常に精密に作られています。このため、外部からの力や衝撃に対して弱くなっておりますので、プラグを抜き差しするときは丁寧にお取り扱いください。
- 本機のデジタル入力は96kHzのサンプリング周波数には対応していません。DVDプレーヤー側のデジタル出力に関する設定を48kHzにしてお使いください。96kHzのデジタル信号を入力すると、ノイズが出ることがありますのでご注意ください。

*1 パソコンの光デジタル出力端子への接続は動作保証いたしません。
*2 PCM出力しかサポートしていない機器の場合、サラウンド効果はすべてDOLBY PRO LOGIC II処理になります。

DTSについて

- DTS音声で収録されたDVDを再生するには、DTSに対応したDVDプレーヤーが必要です。（詳しくはお使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。）
- DTSフォーマットのCDで、早送り時や巻き戻し時などにノイズが発生することがありますが、故障ではありません。
- DVDプレーヤーのDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」になっている場合は、DVDメニューでDTS出力を選択しても音が出ないことがあります。
- DVDプレーヤーと本機をアナログで接続している場合、音が出ないことがあります。この場合は、デジタルで接続してください。

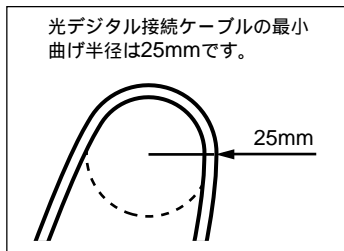
接続コード（別売り）

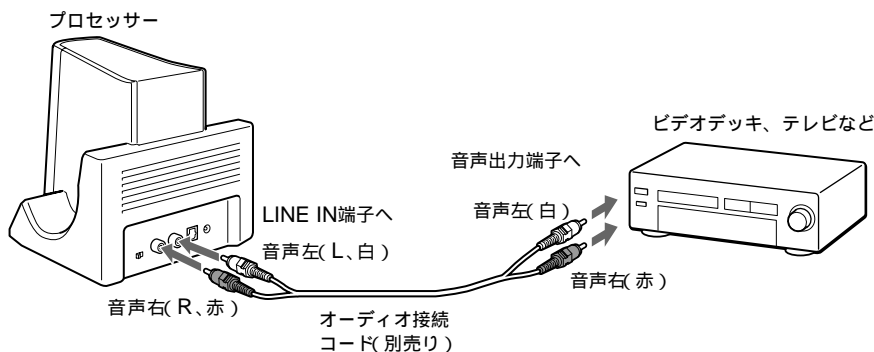
ポータブルDVDプレーヤーやポータブルCDプレーヤーなどの光ミニデジタル出力端子からDIGITAL IN端子へつなぐときは、接続コード POC-5AB（ミニプラグ ←→ 角型プラグ）などをお使いください。

光デジタルセレクター（別売り）

複数のデジタル機器を接続したいときは、光デジタルセレクター SB-D30（入力3系統、出力2系統）をお使いになると便利です。

光デジタル接続ケーブルについてのご注意

- 光デジタル接続ケーブルには落下物などによる衝撃を与えないでください。
- 光デジタル接続ケーブルの抜き差しは、プラグを持って、丁寧に行なってください。
- 光デジタル接続ケーブルの先端が汚れると性能が低下しますので、汚さないようにしてください。
- 保管の際は、プラグ先端にキャップを付けて、光デジタル接続ケーブルを折り曲げすぎないようにしてください。

プロセッサーとアナログ機器をつなぐ

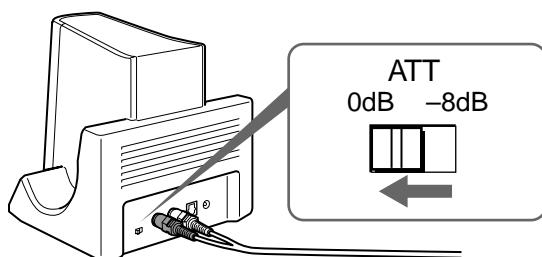
別売りのオーディオ接続コードを使って、ビデオデッキやテレビなどの音声出力端子と、プロセッサーのLINE IN（L/R）端子をつないでください。

接続コード（別売り）

ヘッドホン端子などのステレオミニジャックからLINE IN端子へつなぐときは、接続コード RK-G129（ステレオミニプラグ ←→ ピンプラグ×2）などをお使いください。
この場合、プレーヤー側のボリュームを中ぐらいにしてお使いください。プレーヤー側のボリュームが低く設定されていると、ノイズが発生することがあります。

その他の接続コード（別売り）については、「主な仕様: 推奨アクセサリー」（31ページ）をご覧ください。

（次のページへつづく）

ATTスイッチについて

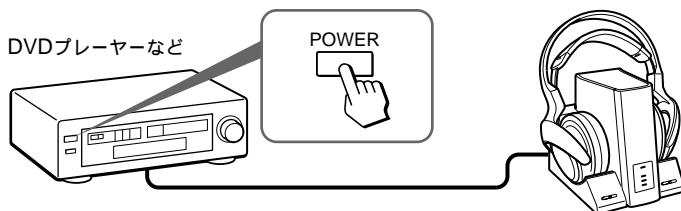
アナログ入力で音声が小さいときは、プロセッサー裏面にあるATT（アッテネーター）スイッチを「0dB」に切り換えてお使いください。

位置	視聴ソース
0dB	テレビやポータブル機器など、出力レベルの低いもの
–8dB	その他の機器（出荷時の設定）

ご注意

- ATTスイッチは、必ず音量を下げてから切り換えてください。
- アナログ入力された音声がひずむ（同時にノイズが発生する場合もあります）ときは、ATTスイッチを「–8dB」に切り換えてください。

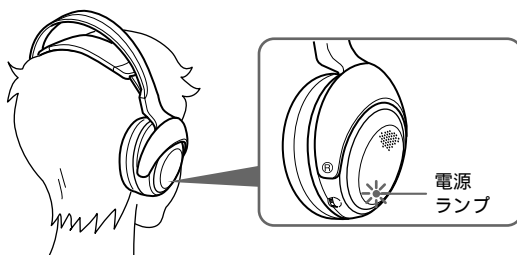
つないだ機器の音声を聞く

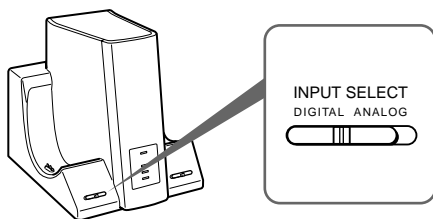
操作に入る前に、必ず「ヘッドホンシステムをつなぐ」(16〜18ページ)をご覧の上、正しい接続を行なってください。

1 プロセッサーをつないだ機器の電源を入れる。

2 プロセッサーからヘッドホンをはずす。

プロセッサーの電源が自動的に入り、約3秒後に赤外線発光部が点灯し、つないだAV機器から入力される音声信号とEFFECT(効果)スイッチの位置に応じて、DECODE MODE(デコードモード)ランプが点灯します。

3 ヘッドホンをかける。

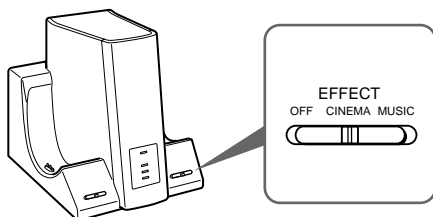
右ハウジング内の電源ランプが赤く点灯し、自動的に電源が入ります。
右ハウジング部(R)を右耳に、左ハウジング部(L)を左耳に合わせ、オートパワーオン/オフ機能が正確に働くように、頭の上から垂直にかけてください。

(次のページへつづく)

4 INPUT SELECT（入力切り換え）スイッチで、音声を聞く機器を選ぶ。

スイッチの位置	聞きたい音源
DIGITAL	DIGITAL IN端子につないだ機器の音声
ANALOG	LINE IN端子につないだ機器の音声

ご注意

二重音声（MAIN/SUB）の音源を視聴するときは、LINE IN端子に接続して、プレーヤーやテレビの方で聞きたい音声を選んでください。

5 手順4で選んだ機器の再生を始める。

6 EFFECT（効果）スイッチで、好みの音場モードを選ぶ。

スイッチの位置	音場モードと適した入力ソース（音源）
OFF	通常のヘッドホン再生。
CINEMA	リアリティのある臨場感あふれるサラウンドモード、まさにシーンの中にいるような感覚に近づけます。 映画などのソースに適しています。
MUSIC	音響環境のよいリスニングルームの音場を再現するモード。音楽ソースに適しています。

ご注意

再生する入力信号によっては、スイッチの位置により、再生音量に違いが生じる場合があります。

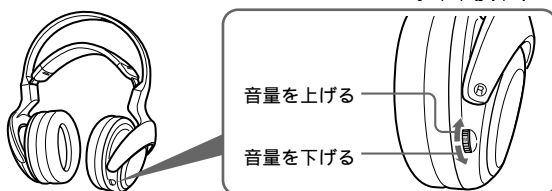
DECODE MODE（デコードモード）ランプについて

入力された音声信号の記録方式をプロセッサーが自動判別して点灯します。ドルビーデジタル／DTSなどの音声切り換えは、つないだ機器側（DVDプレーヤーなど）で行なってください。

- DOLBY DIGITAL：ドルビーデジタルフォーマットで記録された信号
- DOLBY PRO LOGIC II：アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号またはドルビーデジタル2チャンネル信号がドルビープロロジックII 処理された場合（音場モード「OFF」を選んでいる場合はドルビープロロジックII 処理されません）
- DTS：DTSフォーマットで記録された信号

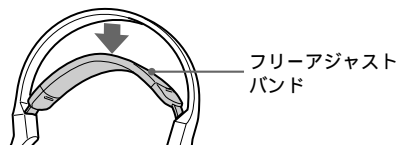
ご注意

DIGITAL IN端子につないだ機器が、早送りや巻き戻しなど「再生」以外の状態ではDECODE MODE（デコードモード）ランプが正確に点灯しない場合があります。その場合は、「再生」状態にするとDECODE MODE（デコードモード）ランプが正確に点灯します。

7 音量を調節する。

ご注意

- 映画の場合、静かなシーンで音量を上げすぎて、急な爆発シーンなどで耳を痛めないようご注意ください。
- ヘッドホンをはずす前にプロセッサーからACパワーアダプターをはずすと、雑音が入ることがあります。
- 音量を調節するときに、赤外線受光部を手でおおうとミュート機能が働き、調節できない場合があります。その場合は、プロセッサーに近づくか、左ハウジング上部の赤外線受光部をプロセッサーに向けて調節してください。

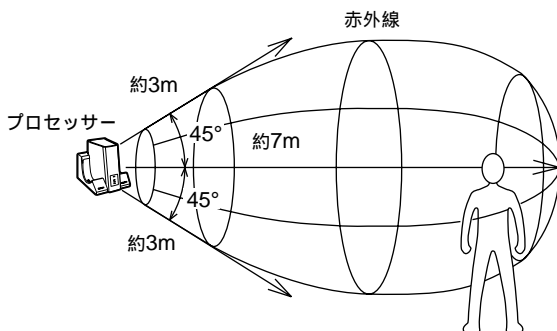
ヘッドホンをはずすと自動的に電源が切れます — オートパワーオン／オフ機能

お使いにならないときは、フリーアジャストバンドが引き上げられた状態にならないようにご注意ください。オートパワーオン機能が誤って働いてしまい、電池が消耗します。

（次のページへつづく）

各モード間の移行時間について
プロセッサーの各スライドスイッチを操作してから新しいモードに移行するときに、移行時間が異なる場合があります。これはモード移行によるシステム制御の違いによるものです。

ヘッドホンから音声が聞こえないときは
赤外線の届く範囲から離れたり、赤外線がさえぎられたりして受信状態が悪くなると、自動的にミューティング機能が働き、ヘッドホンから音声が聞こえなくなります。プロセッサーに近づくか、赤外線がさえぎられないようにすれば、自動的にミューティング状態は解除されます。

赤外線の届く範囲について

プロセッサーから赤外線が届く範囲は、おおよそ下図のとおりです。

ご注意
- このシステムは赤外線を使用しているため、上図の範囲内であってもプロセッサーから離れるにしたがって、雑音が増えます。また、赤外線がさえぎられた場合は音がとぎれたり、雑音が入ることがあります。これらの現象は赤外線の特性によるもので、故障ではありません。
- 赤外線受光部を手や髪でおおわないでください。
- プロセッサーはヘッドホンに対して前方、後方、横方向に置いてもヘッドホンをお使いになる位置が図の範囲内であればお使いになれます。
- プロセッサーの位置やお使いになる場所の状況により聞こえかたが異なります。なるべく聞こえやすい位置でお使いになることをおすすめします。
- 直射日光などの強い光線の下で使わないでください。音がとぎれる場合があります。
- プラズマディスプレイからの光の影響を受け、お使いになれない場合があります。
- 他のプロセッサーやトランスミッターと併用すると混信することがあります。

約10分間以上音声信号が入力されないと

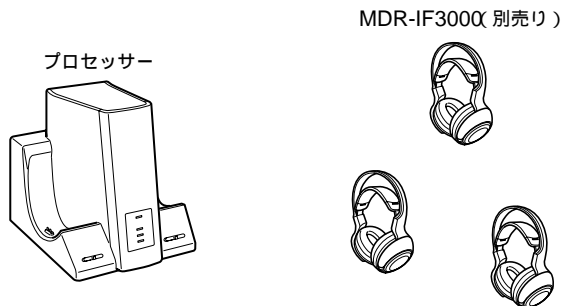
プロセッサーの赤外線送信部からの赤外線が自動的に停止し、再び音声信号が入力されると自動的に赤外線が送信されます。また、アナログ入力で非常に小さい音が約10分間続いたときも、赤外線送信部からの赤外線が停止することがあります。この場合はつないだ機器の音量を上げ、ヘッドホンの音量を下げてお使いください。LINE IN端子につないだ機器からノイズ信号が出力されていると、赤外線出力が停止しない場合があります。

ご注意

- プロセッサーの赤外線発光部の明るさにムラがある場合がありますが、赤外線の届く範囲などの性能には影響ありません。
- ヘッドホンは、赤外線が届く範囲（前記「赤外線の届く範囲について」）でお使いください。
- オープンエアタイプのヘッドホンは、音が外にもれる構造になっています。音量を上げ過ぎて、周囲の迷惑にならないように心がけてください。
- 音楽CDのように映像を伴わないソースの場合、音の定位がわかりにくい場合があります。
- 本システムは人間の平均的なHRTF*（頭部伝達関数）をシミュレートしていますが、HRTFには個人差があるため効果の感じかたは人により異なる場合があります。

* Head Related Transfer Functionの略です。

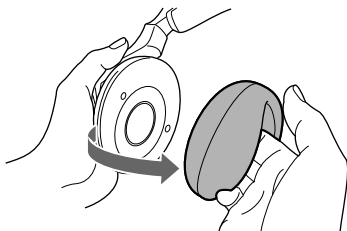
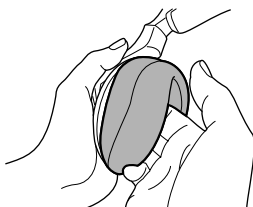
ヘッドホンを増設して楽しむ

本システムでは、別売りの専用赤外線コードレスヘッドホン(MDR-IF3000)を増設することにより、複数の人が同時にワイヤレスでサラウンドを楽しむことができます。
増設したヘッドホンは、本システムのプロセッサーで充電を行ないます。
*受信エリア内であれば、何台でも使用可能です。

プロセッサー

ご注意
充電中は、プロセッサーの電源が自動的にOFFになります。他のヘッドホンを使用するときは、本システムのヘッドホンをプロセッサーからはずしてください。

イヤーパッドを交換する

イヤーパッドは消耗品です。汚れたり破損した場合は、下図を参照してイヤーパッドを交換してください。このイヤーパッドは市販されていませんので、お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口へお問い合わせの上、お取り寄せください。

1 **古くなったイヤーパッドをはずす。**

2 **イヤーパッドをハウジングの外周に合わせるようにはめ込む。**

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検してください。それでも正確に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	➡プロセッサーとAV機器の接続を確認する。 ➡プロセッサーにつないだAV機器の電源を入れ、演奏（再生）を始める。 ➡プロセッサーの電源を入れてから、ヘッドホンをかける。 ➡プロセッサーのINPUT SELECTスイッチの設定が、音を聞きたい機器を正しく選んでいるか確認する。 ➡プロセッサーとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ヘッドホンの音量を上げる。 ➡ミュート機能が働いている。 • プロセッサーとヘッドホンの間に障害物がないか確認する。 • なるべくプロセッサーの近くでヘッドホンを使用する。 • プロセッサーの位置や角度を変える。 • プラズマディスプレイが本システムの近くにある場合、本システムをプラズマディスプレイから離す。 ➡ヘッドホンの電源ランプが暗い、点滅する、消灯している、または音がひずむ、とぎれとぎれになる、「ボッボッ」というノイズ音が聞こえたり雑音が多くなった。 • 充電式電池が消耗しているので充電をする。または乾電池を新しいものと交換する。それでも電源ランプが消灯したままの場合は、ソニーサービス窓口にお持ちください。 ➡DTSに対応していないDVDプレーヤーでDTS音声トラックを再生している。DTSに対応したDVDプレーヤーを使用する。またはDolby Digital やPCM音声トラックを選択する。 ➡DVDプレーヤー（ゲーム機を含む）のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」の状態で、DTS音声で収録されたDVDを再生している。 お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、DTSデジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。 ➡DVDプレーヤー（ゲーム機を含む）と本機をアナログで接続している状態でDTS音声で収録されたDVDを再生している。 デジタルで接続してください。（DVDプレーヤーからアナログ音声が出力されない場合があります。）

症状	原因と対応のしかた
音がひずむ、とぎれとぎれになる（同時にノイズが出る場合もある）	➡ヘッドホンの電源ランプが暗い、点滅する、消灯している、または音がひずむ、とぎれとぎれになる、「ボッボッ」というノイズ音が聞こえたり雑音が多くなった。 • 充電式電池が消耗しているので充電をする。または乾電池を新しいものと交換する。それでも電源ランプが消灯したままの場合は、ソニーサービス窓口にお持ちください。 ➡プロセッサーのATTスイッチを「–8dB」に切り換える。 ➡プロセッサーとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を下げる。 ➡DTSソース視聴時は、プロセッサーのEFFECT（効果）スイッチを「CINEMA」または「MUSIC」に切り換える（20、21ページ）。
音が小さい	➡プロセッサーのATTスイッチを「0dB」に切り換える。 ➡プロセッサーとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ヘッドホンの音量を上げる。
雑音が多い	➡プロセッサーの近くでヘッドホンを使用する。（プロセッサーから離れるにつれて雑音が多くなります。この現象は赤外線の特性によるもので、故障ではありません。） ➡プロセッサーとヘッドホンの間に障害物がないか確認する。 ➡赤外線受光部を手や髪でおおっていないか確認する。 ➡直射日光の入る窓際で使っているときは、カーテンやブラインドを閉めて直射日光が当たらないようにする。または、直射日光の当たらない場所で使う。 ➡プロセッサーの位置や角度を変える。 ➡プロセッサーとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ヘッドホンの電源ランプが暗い、点滅する、消灯している、または音がひずむ、とぎれとぎれになる、「ボッボッ」というノイズ音が聞こえたり雑音が多くなった。 • 充電式電池が消耗しているので充電をする。または乾電池を新しいものと交換する。それでも電源ランプが消灯したままの場合は、ソニーサービス窓口にお持ちください。 ➡すでに本機以外のプロセッサーまたはトランスミッターをお持ちのときは、同時に2台以上のプロセッサーまたはトランスミッターを使っていないか確認する。 • 本機以外のプロセッサーまたはトランスミッターの電源を切るか、本機以外のプロセッサーまたはトランスミッターからの赤外線が届かない所へ移動する。 ➡プラズマディスプレイが本システムの近くにある場合、本システムをプラズマディスプレイから離す。

（次のページへつづく）

症状	原因と対応のしかた
サラウンド効果が得られない	➡ プロセッサーのEFFECT(効果)スイッチを「CINEMA」または「MUSIC」に切り換える(20、21ページ)。 ➡ 再生中の音声がマルチチャンネルの信号になっていない。 モノラル音源の場合、サラウンド効果が得られません。
DOLBY DIGITALランプが点灯しない	➡ DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)の音声デジタル出力の設定が「PCM」になっている。 お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、ドルビーデジタルデコーダーを内蔵した機器を使用するときの設定(「ドルビーデジタル/PCM」、「Dolby Digital」など)に切り換えてください。 ➡ ドルビーデジタルフォーマットで記録されていない信号を再生している。 ➡ 再生中のチャプターの音声がドルビーデジタルの信号になっていない。
DOLBY PRO LOGIC IIランプが点灯しない	➡ プロセッサーのEFFECT(効果)スイッチが「OFF」になっている。 ➡ アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号またはドルビーデジタル2チャンネル信号が入力されていない。
DOLBY PRO LOGIC IIランプが点灯してしまう	➡ プロセッサーのEFFECT(効果)スイッチが「CINEMA」または「MUSIC」になっている。 ➡ アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号またはドルビーデジタル2チャンネル信号が入力されている。
DTSランプが点灯しない	➡ DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」になっている。 お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、DTSデジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。 ➡ DTSフォーマットで記録されていない信号を再生している。 ➡ 再生中のチャプターの音声がDTSになっていない。 ➡ DVDプレーヤーがDTSに対応していない。 DTSに対応したDVDプレーヤーをお使いください。
充電できない	➡ CHG(充電)ランプが点灯しているか確認する。ヘッドホンがプロセッサーの正しい位置にのせられているか確認する。 ➡ 乾電池が入っている。 • 付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる。 ➡ 付属以外の充電式ニッケル水素電池が入っている。 • 付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる。
赤外線出力が停止しない(プロセッサーのINPUT SELECTスイッチが「ANALOG」のとき)	➡ つないだアナログ機器からノイズ信号が入っている。 • プロセッサーのINPUT SELECTスイッチを「DIGITAL」に切り換え、DIGITAL IN端子につながれている機器の出力を停止する。

使用上のご注意

取り扱いについて

- プロセッサー、ヘッドホンを落としたりぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因となります。
- 各機器を分解したり、開けたりしないでください。

電源と設置について

- 長い間使わないときは、ACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。コンセントから抜くときは、コードを引っぱらずに必ずACパワーアダプター本体をつかんで抜いてください。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 直射日光があたる場所や暖房器具の近くなど温度が非常に高い所。
  - ほこりの多い所。
  - ぐらついた台の上や傾いた所。
  - 振動の多い所。
  - 風呂場など、湿気の多い所。

ヘッドホンについて

まわりの人のことを考えて

ヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。
雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも、呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

お手入れのしかた

機器の外装の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、うすい中性洗剤溶液でしめらせた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためるので使わないでください。

異常や不具合が起きたら

- 万一異常や不具合が起きたり、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
- お買い上げ店またはソニーサービス窓口にお持ちになる際は、必ずヘッドホンとプロセッサーを一緒にお持ちください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではコードレスデジタルサラウンドヘッドホンシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

プロセッサー　DP-IF3000

デコーダー機能
: ドルビーデジタル
: ドルビープロロジックII
: DTS

バーチャルサウンド機能
: OFF
: CINEMA
: MUSIC

変調方式　周波数変調－輝度変調(IEC準拠)

副搬送波周波数
: 右チャンネル　2.8MHz
: 左チャンネル　2.3MHz

到達距離　正面約7m

伝送帯域　20～20,000Hz

ひずみ率　1%以下(1kHz)

音声入力　光デジタル入力(角型)×1系統
アナログ入力(ピンジャック、右／左)×1系統

電源　DC 9V(付属のACパワーアダプターを使用)

最大外形寸法　約145×150×146mm(幅／高さ／奥行き)

質量　約370g

ヘッドホン　MDR-IF3000

再生周波数帯域
: 20～20,000Hz

電源　付属の専用充電式ニッケル水素電池または別売りの単4形乾電池

質量　約275g(付属の専用充電式ニッケル水素電池含む)

付属品

ACパワーアダプター(9V)(1)
専用充電式ニッケル水素電池
BP-HP550 (550mAh min)(2)
光デジタル接続ケーブル(光角型プラグ ←→ 光角型プラグ、1.5m)(1)
取扱説明書(1)
ソニーご相談窓口のご案内(1)
保証書(1)

推奨アクセサリー

接続コード　RK-C310、RK-C315、RK-C320、RK-C330(ピンプラグ×2 ←→ ピンプラグ×2)
RK-G129(ステレオミニプラグ ←→ ピンプラグ×2)

光デジタルセレクター
SB-D30

光デジタル接続ケーブル
POC-5A、POC-10A、POC-15A、POC-20A、POC-30A(光角型プラグ ←→ 光角型プラグ)
POC-5AB、POC-10AB、POC-15AB、POC-20AB、POC-30AB(光角型プラグ ←→ 光ミニプラグ)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。